

県立劇場

若きアーティストたちが熱演。
第三回九州・沖縄ジュニアオーケストラフェスティバル



三月三十一日(日)
コンサートホール(午後二時)
九州・沖縄で活躍中の若きあふれるオーケストラが一堂に会します。

コンサートホール

- 三月十六日(土) 熊本市保育所連盟
三月三十一日(日) 九州・ジュニア・ユースオーケストラ
四月六日(土) 三沢あけみチャリティーショー
四月七日(日) 思い出のメロデー 淡谷のり子ほか
四月十三日(土) アル・ウィルトピアノリサイタル
五月三日(祝) 赤十字大祭典
五月十二日(日) 18:00 アロン・ローザンド・ヴァイオリン・リサイタル
五月十四日(火) 第三十九回熊審定期演奏会
五月三十一日(金) NHK交響楽団 自主文化事業

県立美術館

ふるさとを語る日本の美。
第四期平常展



二月九日(土)~三月三十一日(日)
熊本市の江戸美術・近代日本画
三月二十六日(火)~三十一日(日)
四月二日(火)~九日(火)
二・三・四の各名作を一堂に。
スペインの光と闇

県書道展

三月二十六日(火)~三十一日(日)
四月二日(火)~九日(火)

県日本画協会展

四月十三日(土)~五月十二日(日)
近代美術の先駆者ゴヤの四大画集

ゴヤ全版画展

四月十三日(土)~五月十二日(日)
近代美術の先駆者ゴヤの四大画集

米原春江染色作品展

四月三日(水)~七日(日)
九州民芸村工房展

クレイワーカーフェスティバル

四月十日(水)~十四日(日)
粘土による作品

くらしの工芸展

五月十五日(水)~二十六日(日)
さわやかな春風も応援。

第10回県総合運動公園

三月十七日(日)・二十四日(日)
三月十七日(日)・二十四日(日)
三月十七日(日)・二十四日(日)

県知事杯テニス大会

三月二十一日(祝)・二十四日(日)
キャプスライオンズ旗

南九州ジュニアテニス大会

三月二十七日(水)~二十九日(金)
西日本YMCA

少年サッカー大会

三月二十九日(金)~三十一日(日)
第10回西日本

少年サッカー大会

四月三日(水)・四日(木)
青葉スポーツ大会

RKK旗中学野球大会

五月五日(日)・六日(月)・十一日(土)

県立総合体育館

かけ声も元気よく、
場内をわかす春の大会。
第12回剣道基本競演大会

第1回オープントーナメント

空手道選手権大会
三月三十一日(日)

第2回火の国旗

全国高校空手道優勝大会
五月三日(祝)・四日(土)

熊日スポーツ大会(バレーボール)

四月二十八日(日)・二十九日(祝)
熊日主催のスポーツ大会として、県下のママさんチームが集います。

第30回全九州

バレーボール総合選手権大会
五月十日(金)~十二日(日)

新日本プロレス

五月十七日(金)
猪木、藤波が外人選手を迎え、MSGシリーズとして、午後六時から午後九時まで行われます。

日本一か!?

白岩鐘乳洞開発調査進行中
(昔北町)



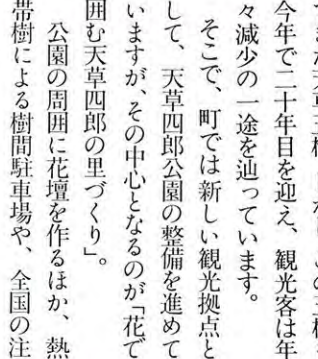
吉尾川上流の銅山地区で川底に落ち込んだ水が、約八キロ離れた白岩地区の鳴瀬川に湧き出すと地元では昔から伝えられています。
町では、熊本商大、短大探険部に調査を依頼し、日本一の白岩鐘乳洞に熱い期待を寄せています。
これが解明できれば、観光資源と

して開発し、海水浴を主とする夏のみの観光地から四季を通じた観光地へ発展させたいと考えています。
桜の里づくり(水上村)
サクラの名所づくりは、昭和三十年の県営市房ダム完成を機に始まりました。現在、延長十六キロのダム湖周辺には、約一万本のソメイヨシノとヤエザクラがあり、県内一のサクラの名所として知られています。
今後は、三か年計画で、サクラの全種約二百種を集め、日本一のサクラの名所を目指します。
毎年春に



花で囲む

天草四郎の里づくり(大矢野町)
交通やそれに伴う産物の流通、特に観光について、重要な役割を果たしてきた天草五橋。しかし、この五橋も今年で二十年目を迎え、観光客は年々減少の一途を辿っています。
そこで、町では新しい観光拠点として、天草四郎公園の整備を進めています。その中心となるのが「花で囲む天草四郎の里づくり」。

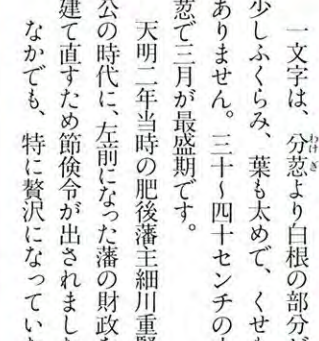


日本一の野焼きの祭典

(阿蘇町・一の宮町)
周囲二・八キロメートルという世界一のカルデラをもつ阿蘇山。その中には、根子岳、高岳、中岳、烏帽子岳、杵島岳の五岳を含む一四、三〇〇ヘクタールの大草原が広がります。
今回、ここで日本一のスケールの野焼きが行われることとなりました。三月二十一日から五日間にわたって行われるもので、その名も「阿蘇の火まつり・炎の宴」。
昼と夜の野焼き、神秘的伝統芸能をレーザー光線、マルチスライドで演出するステージ、茅の束についた火が幻想的な大小の輪を描く火振り神事など、次々と紹介されます。
神と人と火の祭りを是非御覧ください。
詳しくは、阿蘇広域市町村圏協議会(☎〇九六七二二二一三三〇五)へお問い合わせください。

熊本春の郷土料理

一文字のぐるぐる
一文字は、分葱より白根の部分が少しふくらみ、葉も太めで、くせもありません。三十五センチの小葱で三月が最盛期です。
天明二年当時の肥後藩主細川重賢公の時代に、左前になった藩の財政を建て直すため節儉令が出されました。なかでも、特に贅沢になっていた



酒の肴が槍玉にあげられ、そこで考案されたのが「一文字のぐるぐる」だと言われています。
葱の風味とツンと鼻に抜ける辛子の利いた酢味噌との見事な味の調和に加えて、長い葱を一口にまとめた形の面白さが、二百有余年受け継がれてきた人氣の秘密と思われる。



(作り方)
①一文字は芯の固さが残る程度にゆでたのち、薄口正油をかけ、軽くもむ。ここで水っぽさを取っておくことが、おいしさの秘訣。
②一口で食べやすい量になるよう大きさを調節し、白根の上を二つ折りにして青葉をぐるぐる巻きつける。この時、葉先を少しつまみ取って内部の空気を押し出すようにすると、巻き終りがピタッと貼りつく。
③うば貝や赤貝を添えて、辛子酢味噌で食べる。

器の説明

小袋焼
小袋焼は、御用窯として茶陶も焼かれたが、高温で焼成して丈夫とあって日用の雑器が数多く作られた。釉薬は藁灰、木炭、長石、ササ、モミ等を用い、流し掛けの方法で行われるところが特徴とされる。その力強い造型と味わい深い地釉、そして大胆な白釉の掛けっぷりは、古武士の風格をしのばせるものがある。

(郷土料理研究家 松永喜美子・器提供 伝統工芸館)